

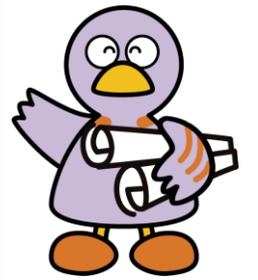
埼玉県 総務部 管財課

# ミライの埼玉県庁、作ってます！

～働きやすい職場（ワークエンゲージメント向上オフィス）の整備と  
県庁舎の再整備に向けた取組～



さいたまっち



コバトン

# 総務部

私たち総務部は、県庁組織の中の「縁の下の力持ち」として、職員の人事などの内部管理などを行っています。また、県税事務や入札事務についても所掌しています。



## 構成課所

人事課 職員健康支援課 文書課 学事課 税務課  
県税事務所(14所) 自動車税事務所 個人県民税対策課  
管財課 統計課 総務事務センター 行政監察幹  
入札課 入札審査課 県営競技事務所

## 活躍している職種

一般行政／一般事務 建築職 設備職 総合土木職 保健師

## 主な業務

- 職員の任免、人材開発、給与、サービス管理等
- 職員の厚生福利及び衛生管理等
- 条例等の立案及び審査、文書事務の指導等
- 私立学校の認可、助成、検査指導等
- 県税の賦課徴収等
- 公有財産の統轄、県庁舎の管理等
- 統計法の施行、統計資料の編集発行等
- 行政監察、内部統制
- 物品の調達、契約事務の企画調整及び指導等  
etc...

- 1、ワークエンゲージメント向上オフィス推進事業とは
- 2、オフィス形態の変遷
- 3、過去の実施事例①（スマートオフィス推進モデル事業）
- 4、過去の実施事例②（ワークラウンジ）
- 5、過去の実施事例③（食堂・クワイエットルーム）
- 6、今年度の事業（ワークエンゲージメント向上オフィス）

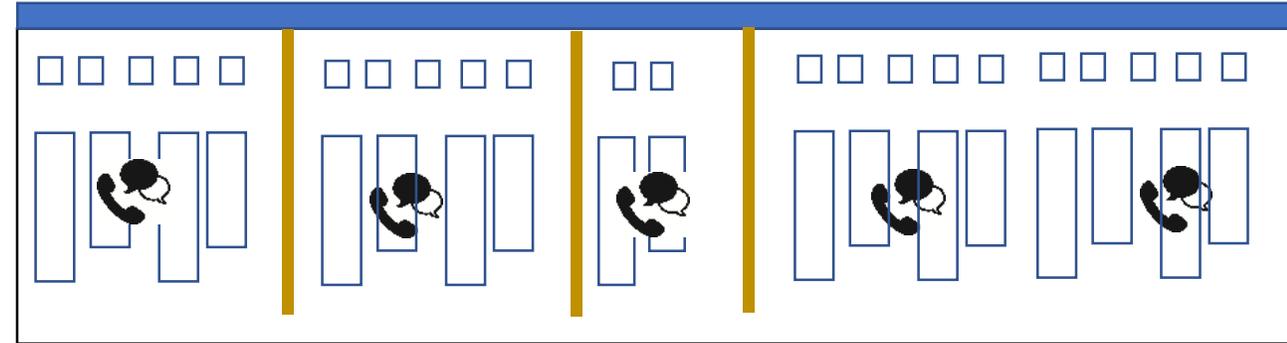
# 働きやすい職場の整備

## 1、ワークエンゲージメント向上オフィス推進事業とは

### ■目的

デジタルを活用した働きやすい職場環境であることで、職員のワークエンゲージメント※が向上し、質の高い県民サービスを提供することを目的に、業務内容に応じて場所を自ら選択して働くこと（A B W : Activity Based Working）ができる執務環境の整備を行い、働き方改革の推進に向けて取り組む。

※ワークエンゲージメント：  
仕事に対する「活力・熱意・没頭」の3つが揃った状態として定義される



従来の執務環境（区切られた所属課所ごとに固定電話・固定席で業務）



レイアウトイメージ

新たな執務環境（オープンプラザの中でスマートフォンを利用し、固定席に捉われない）

# 働きやすい職場の整備

## 2、オフィス形態の変遷

日本企業のオフィス形態の変遷

～1990年代後半	<b>固定席</b>	部署ごとに島をつくる「対向島型」であり、一人ひとりに固定席が割り当てられる
1990年代後半～2000年代	<b>単純フリーアドレス</b>	壁を全て取り払い、席数を減らして共有化し、従業員に席を自由に選択してもらう
2010年代半ば～	<b>固定席型ABW</b>	自席(固定席)があり、そこをベースに自分の活動に適したオフィス内のスペースに移動できる
	<b>ABW</b>	色々なタイプのゾーンから、完全に自由に座席を選ぶ

○ABWでは高いクリエイティビティが達成される一方、座席選択が自由なだけの「単純フリーアドレス」の勤務環境は、クリエイティビティを創出できない。

※ABW (Activity Based Working) とは、その時々の仕事の内容に合わせて、働く場所を自由に選択する働き方を指します。

## 3、過去の実施事例①（スマートオフィス推進モデル事業）

### ■ 目的

多様な執務スペースや共用スペースを創出し、デジタル化に合わせた創造的な仕事を行う働きやすい執務環境の実現を目指す。

### ■ 取組内容

- 執務室レイアウトの見直しによる打合せ等共用スペースの創出
- 机・椅子等の省スペース化などによる狭隘の改善

〔取組内容イメージ〕

執務室レイアウトの見直しによる打合せ共用スペースの創出



【改善前】



【改善後】

机・椅子等の省スペース化などによる狭隘の改善



【改善前】



【改善後】

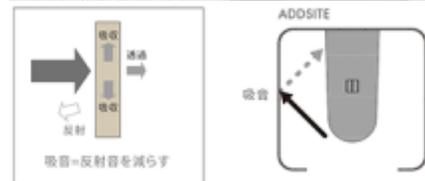
# 働きやすい職場の整備

## 3、過去の実施事例①（スマートオフィス推進モデル事業）

### 物品調達

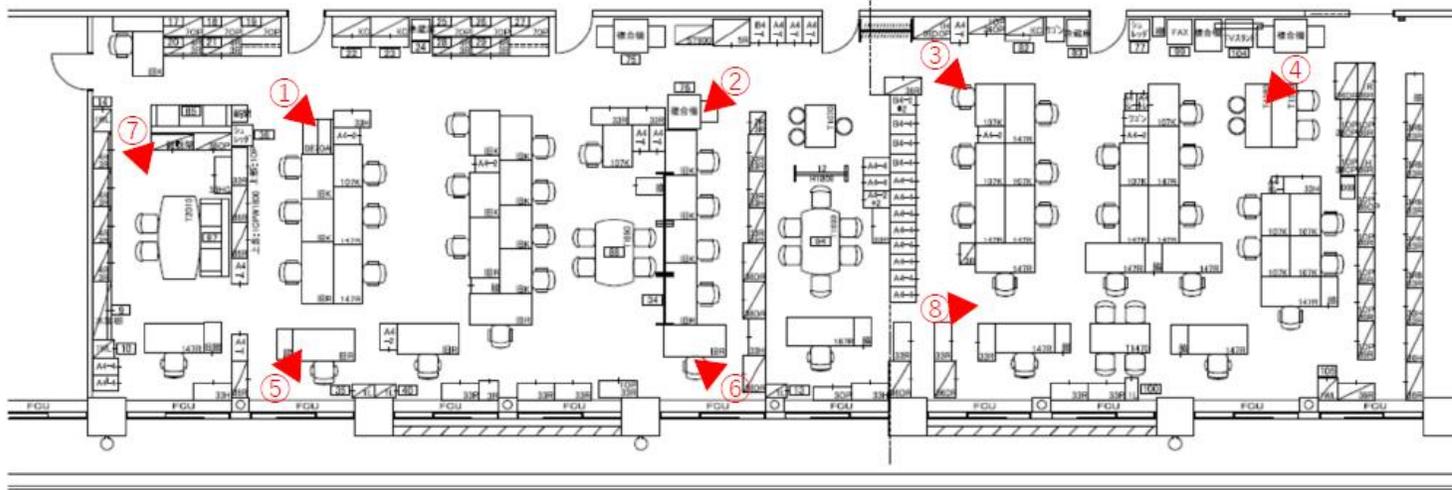
- ・ 執務机は将来的にフレキシブルに対応できるようにフリーアドレスデスクとする。
- ・ 将来的な全庁的な転用を考慮し、昨年までの執務環境改善で採用された埼玉県庁標準タイプを選定。
- ・ 収納庫は壁面に集中保管を原則とし、中間収納庫設置の際はH1200を超えないものとする。
- ・ 従来デスクのような袖机を廃し、個人用ロッカーによる管理とする（役職は除く）。
- ・ 打合せ、集中ブースにて使用するパネルは騒音を考慮し、吸音タイプのパネルを使用する。  
執務室を圧迫しないよう高さをH1340までとする。
- ・ 内部ミーティングは時間効率を上げるため立式のテーブルもしくは収納庫を活用する。

【イメージ】



# 働きやすい職場の整備

## 3、過去の実施事例①（スマートオフィス推進モデル事業）

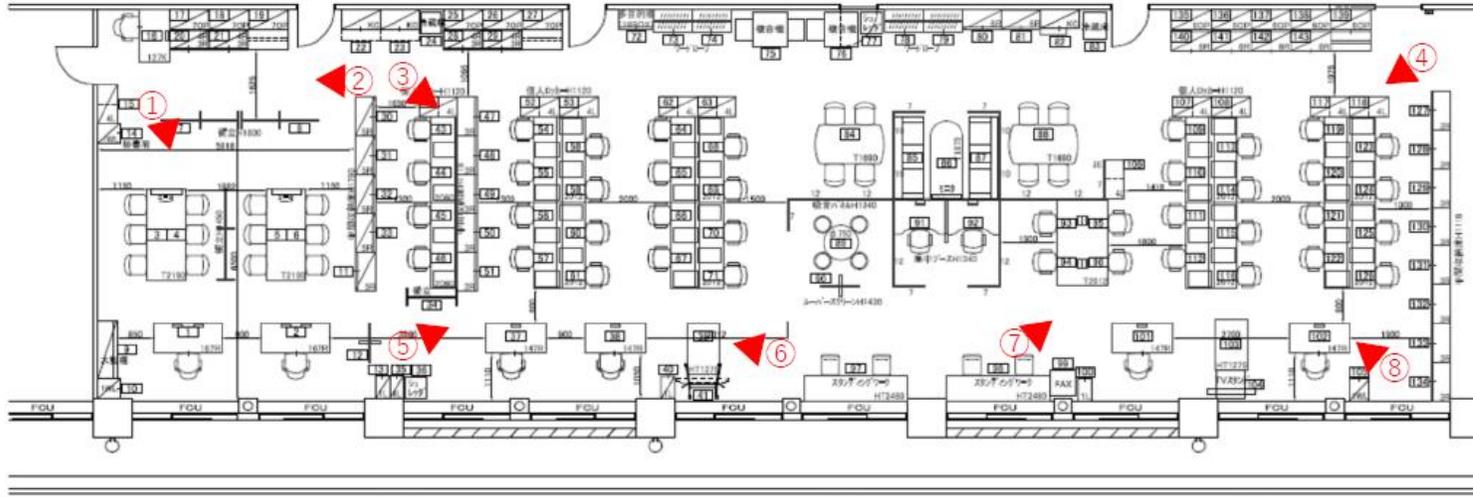


改修前



# 働きやすい職場の整備

## 3、過去の実施事例①（スマートオフィス推進モデル事業）

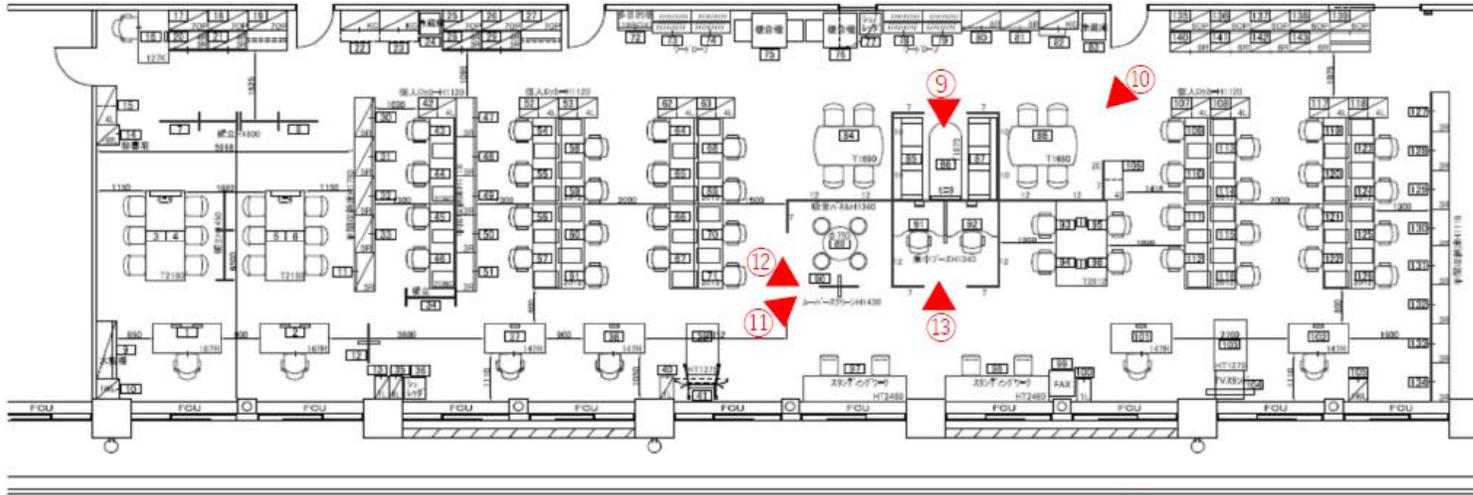


改修後

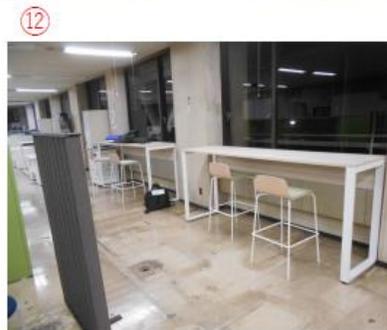
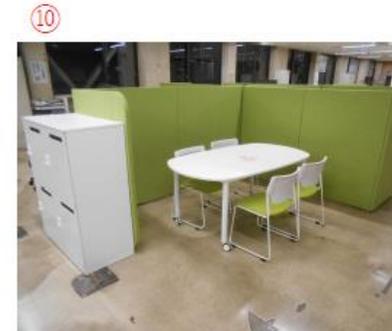


# 働きやすい職場の整備

## 3、過去の実施事例①（スマートオフィス推進モデル事業）



改修後



## 4、過去の実施事例②（ワークラウンジ）

もともとは、浄書センター（＝紙を大量に印刷する場所）でした。  
ペーパーレスの推進により、浄書センターが不要に  
職員の新しい働き方に対応したワークスペースにしよう！

### ワークラウンジ

**Work（仕事） + Lounge（交流の場）**

**いつでも気軽に使えるよう原則予約不要に**  
需要の多い会議スペースと集中ブースのみ予約制

**リアルタイムの利用状況が見える化**  
情報システム戦略課のITコンサルさんの協力によりお金をかけずに実現

**リラックスできる環境を重視**  
コーヒー自販機の導入や靴を脱いでリラックスできるように

改修前



# 働きやすい職場の整備

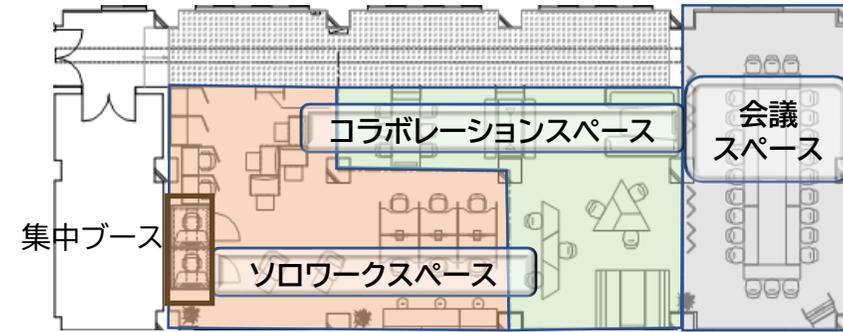
## 4、過去の実施事例② (ワークラウンジ)

改修後



### 利用案内

- ・開庁日 8:30~17:15
- ・県職員はどなたでもフリーで利用可能
- ※会議スペース・集中ブースは要予約



### ソロワークスペース

集中して業務に取り組みたいときに

- ・ソファー席、個別ブースなど21席
- ・Web会議にも対応した集中ブースあり (2席・要予約)
- ・デスクにはサブモニター設置



### コラボレーションスペース

担当や他課とのミーティング・交流に

- ・4人~6人でミーティングできるテーブル、ブース
- ・色々な組み合わせで1人~6人で使えるデスク
- ・テーブル、ソファー席にはサブモニター設置



### 会議スペース(※要予約)

最大24名までの会議に対応

- ・講義スタイルでのレイアウトも可能
- ・モニター、ホワイトボード設置





## 5、過去の実施事例③（食堂・クワイエットルーム）



第二庁舎 地下食堂  
ランチ営業時間(11:00~14:00)は  
食堂利用のみですが、  
ランチ営業時間以外は、会議スペース、  
コワーキングスペース、ディスカッション  
スペースとして利用できます。



## 5、過去の実施事例③（食堂・クワイエットルーム）

クワイエットルームとは・・・静かな(Quiet)空間のこと  
私語やWEB会議はしないルールとなっており、静かで集中しやすい環境となっています。  
また空調は個別管理できるため、快適な温熱環境となっています。



# 働きやすい職場の整備

## 6、今年度の事業（ワークエンゲージメント向上オフィス）

【予算額】 95,305千円

### 目的

職員が働きやすい職場環境を整備し、健康増進とあわせて仕事のやりがいを高めることにより、職員のワークエンゲージメントを向上させ、質の高い県民サービスの提供を図るとともに、その効果を実証し、新たな庁舎の在り方の検討に活用する。

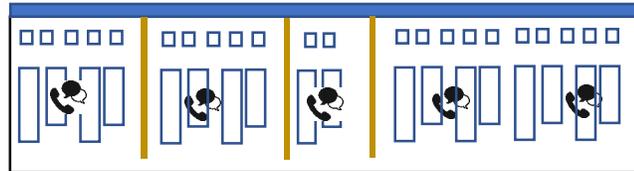
### 事業概要

※ワークエンゲージメント：仕事に対する「活力・熱意・没頭」の3つが揃った状態として定義される

#### 1 ABW型働き方改革の推進 86,700千円

##### (1) フリーアドレスエリアの設置 (新規) 70,120千円

- ・ 所属の垣根を超えて業務に応じ働く場所を選べる執務室を整備
- ・ 固定席に捉われないよう対象職員全員にスマートフォン（電話、位置把握等）を貸与



※ABW (Activity Based Working)  
仕事の内容等に応じて働く時間や  
場所を自由に選択できる働き方

##### (2) 地域版ワークラウンジの整備 (新規) 16,580千円

- ・ 地方庁舎の一角に、ABWに対応したワークスペース機能を設置
- ・ ペーパーレスから業務プロセス改革を進めるための空間を整備し、地域機関での働き方改革を後押し



#### 2 個々の職員へのきめ細やかな面談・指導体制の構築 5,855千円

##### (1) 職員のメンタルヘルス対策 (一部新規) 4,752千円

- ・ 保健師や心理士が、全新規採用職員に面談を実施し、メンタルケアや生活習慣改善を助言

##### (2) 若手職員・女性職員のキャリア支援等 (一部新規) 1,103千円

- ・ 将来に向けてキャリアを見つめ直す契機とするため、主任級昇任者を対象に「キャリアデザイン」に関する研修を実施
- ・ 女性職員を対象としたキャリアカウンセリングにおいて、育休中の職員が優先して受けられる枠を新設



#### 3 ワークエンゲージメント調査の実施 2,750千円

##### (1) ワークエンゲージメント調査の実施 (新規) 2,750千円

- ・ 働き方等に関する多角的な効果を検証し、指標を可視化
- ・ 分析結果を働き方改革や健康経営、キャリア支援等に活用し、さらなるワークエンゲージメント向上を図る

# 働きやすい職場の整備

## 6、今年度の事業（ワークエンゲージメント向上オフィス）

職員を対象にしたワークショップ

第1回（令和6年6月24日）  
インプット＋課題抽出



- ① オフィス見学
- ② ワーク：現状課題の抽出

第2回（令和6年7月11日）  
新しい働き方・オフィスの検討



- ① ありたい姿(働き方) の検討
- ② 新しいオフィスに必要な機能の検討

第3回（令和6年8月1日）  
検討案のブラッシュアップ



- ① 仮レイアウトへの上乗せアイデア検討
- ② 必要な運用アイデアの検討

# 働きやすい職場の整備

## 6、今年度の事業（ワークエンゲージメント向上オフィス）

- 仕事内容に応じて、場所を自ら選択して働くこと(ABW)ができる執務環境の整備
- 職員のワークエンゲージメント(仕事へのやりがい)を向上させる取り組み



※イメージ図



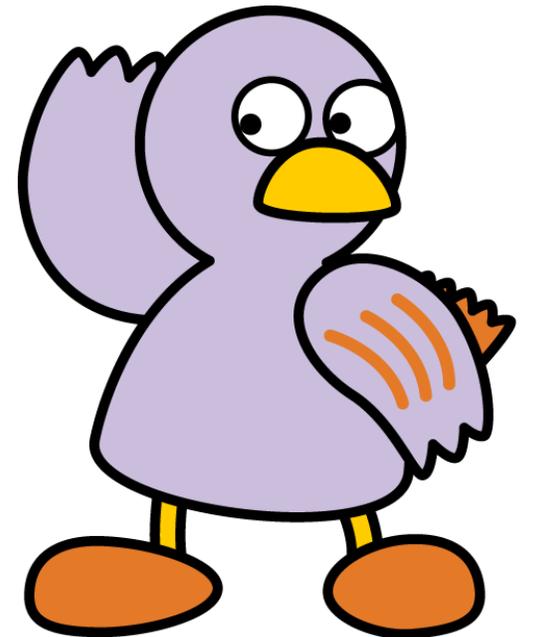
「埼玉県庁」……………。

どんなイメージが浮かびますか？

古い？

狭い？

どこにあるっけ？



# 県庁舎再整備に向けた取組

## 【埼玉県庁の位置】



## 【周辺図】



■ 庁舎敷地等

＜県庁までのアクセス＞

J R 浦和駅から約 8 0 0 m (徒歩 1 0 分)

# 県庁舎再整備に向けた取組

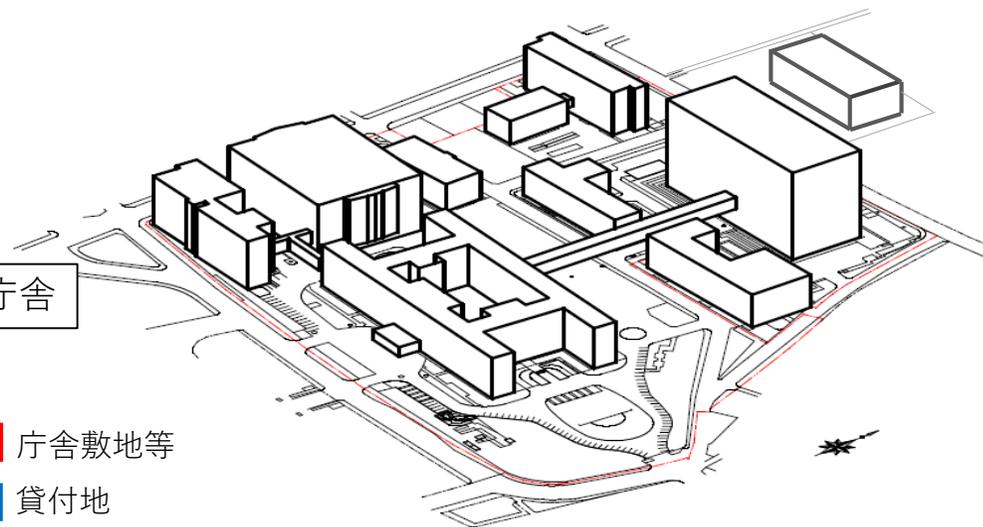
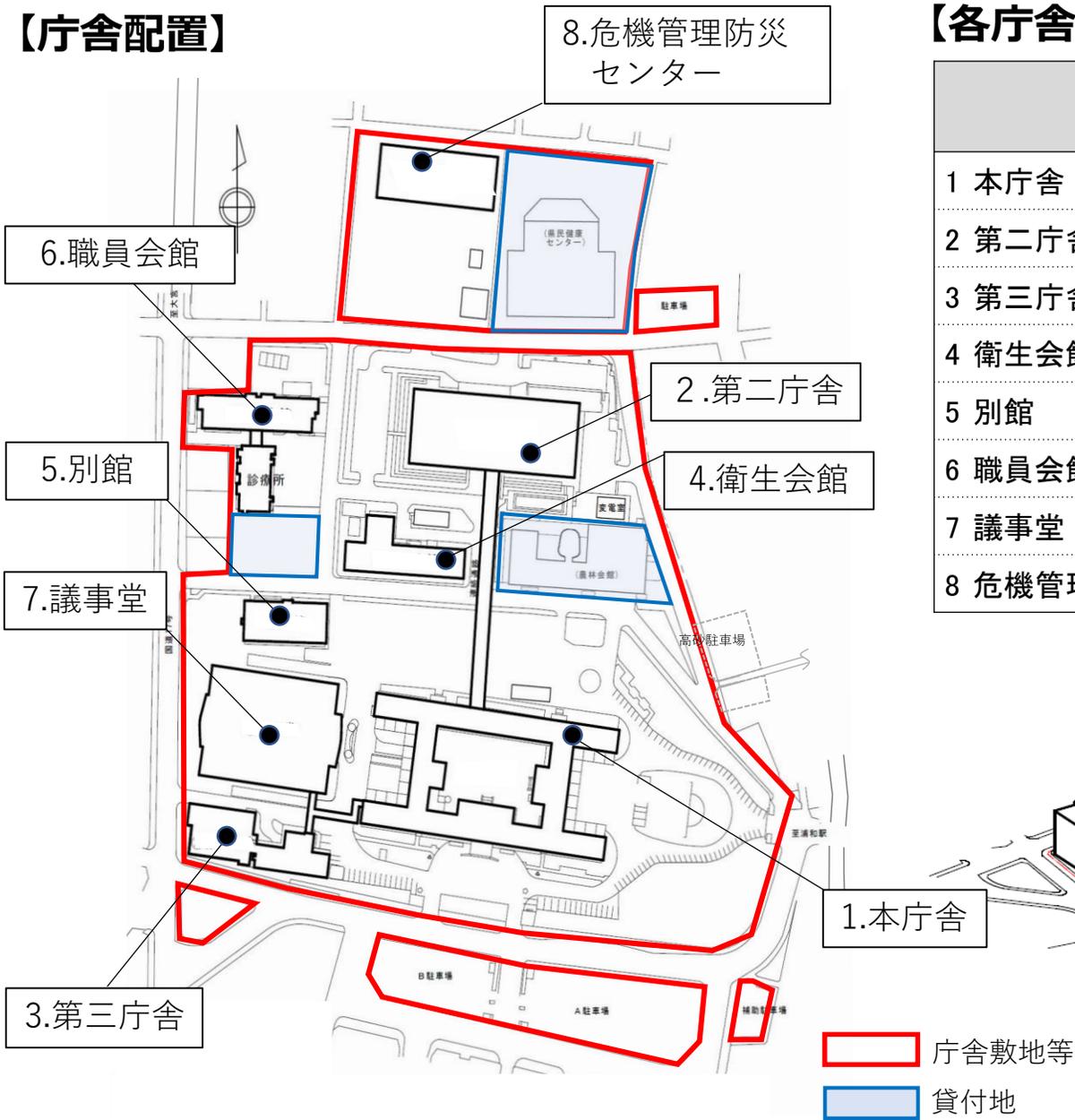
令和13年度には県庁舎の最も古い部分が、目標使用年数としている建築後80年を迎える。

## 【各庁舎の構造・規模等】

施設名	建設年度	築年数 (R6時点)	構造・階数	建築面積	延床面積
1 本庁舎	S26～30	73～69年	RC造 地上 5F / 地下1階	3,672 m <sup>2</sup>	22,836 m <sup>2</sup>
2 第二庁舎	S48	51年	SRC造 地上 10F / 地下2階	2,234 m <sup>2</sup>	33,514 m <sup>2</sup>
3 第三庁舎	S38・54	61・45年	RC造 地上 5F / 地下1階	1,996 m <sup>2</sup>	6,358 m <sup>2</sup>
4 衛生会館	S35	64年	RC造 地上 3F / 地下1階	929 m <sup>2</sup>	3,091 m <sup>2</sup>
5 別館	S42	57年	RC造 地上 3F / 地下1階	697 m <sup>2</sup>	2,784 m <sup>2</sup>
6 職員会館・診療所	S45	54年	RC造 地上 5F / 地下1階	889 m <sup>2</sup>	6,458 m <sup>2</sup>
7 議事堂	S58	41年	RC造 地上 5F / 地下2階	3,270 m <sup>2</sup>	18,065 m <sup>2</sup>
8 危機管理防災センター	H22	14年	RC造 地上 2F	1,532 m <sup>2</sup>	2,998 m <sup>2</sup>

延床面積合計 96,104 m<sup>2</sup>

## 【庁舎配置】



南側から見た本庁舎

# 県庁舎再整備に向けた取組

## 【検討体制】

令和2年度

県庁舎問題検討会 ⇒ 県庁舎に係る課題を庁内で共有・討議



令和3・4年度

県庁舎再整備検討委員会 ⇒ DX等による社会変革を考慮した県庁舎再整備に関する事項を検討



令和5年度

県庁舎再整備検討委員会 及び 県庁舎再整備専門家会議 ⇒ 専門部会を設置し、以下について検討

- (1) 将来の県庁、県庁舎の主な課題
- (2) 将来を見据えた働き方、県庁舎・オフィス像



令和6年度

県庁舎再整備検討委員会 及び 県庁舎再整備専門家会議 ⇒ 令和5年度に続き、以下について検討

- (1) 県庁舎再整備にあたり求められる機能(利便機能、環境性能、危機管理)
- (2) 働き方・執務スペース
- (3) 県庁舎の位置

# 県庁舎再整備に向けた取組

【求められる機能について(利便機能)】(令和6年度第1回埼玉県県庁舎再整備検討委員会資料より)

- 複雑化する地域課題を解決する主体は県職員だけではない。多様な主体との連携・協働が求められている。
- 将来の県庁舎を「行政手続きを行う場所」から「**県の未来を考え、問題を解決し、発信する中心地**」と位置付けて、県民等との連携を高める機能を導入することを検討する必要もある。
- また、50年、60年先を想像することは困難であることを前提に、利便機能を導入する際は**フレキシビリティ(柔軟性)**の視点も考慮することが重要である。

## 想定する機能

- ✓ コワーキングスペース
- ✓ 共創スペース
- ✓ 県の事業・民間ビジネスに関する相談・アドバイス

## フレキシビリティの視点

- ✓ 専門家会議の意見「行政機能が途絶えない」や「災害や危機対応へのシフトチェンジ」
- ✓ 例えば、有事の際には「共創スペース」→「防災スペース」に転用できるなどフレキシビリティの視点を導入

### 県の未来を考え、問題を解決し、発信する中心地



議論する



疑問を解決する



教えあう  
ノウハウを共有  
する

# 県庁舎再整備に向けた取組

【求められる機能について(環境性能)】(令和6年度第1回埼玉県県庁舎再整備検討委員会資料より)

- 県庁舎再整備における脱炭素の取組については、建物の省エネや再生可能エネルギーの活用、エンボディドカーボンの削減等、多角的な検討を行うことが必要である。

## 環境共生型庁舎の実現

再生可能  
エネルギーの活用

省エネルギー  
性能の確保

ZEB化

木造・木質化

サーキュラー  
エコノミーの推進

- ZEB Ready相当の省エネルギー性能の確保が最低ライン。
- これに加えて、さらなる省エネルギー性能の向上を図るとともに、再生可能エネルギーの活用について積極的に検討すべき。
- 庁舎における使用電力における再エネの割合を高めていくことが重要。

- 可能な範囲で、部分的にでも木造・木質化に取り組んでいくべき。
- 木造・木質化においては、木材の調達方法についても要検討。

- できるところから検討を開始することが重要。
- エンボディドカーボン※の削減に注目が集まっていることにも留意。

※建物の資材製造・建設から廃棄までに排出される運用時を除いた温室効果ガスの総和。



環境配慮に関連した補助金等の活用、  
グリーンボンドといった  
資金調達方法の検討

環境の改善に努めている  
建設事業者による整備を促す

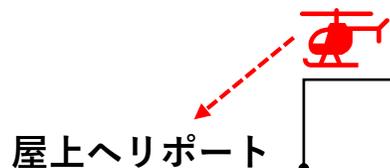
調達や輸送・建設段階においても  
CO2を排出しない取組を行う

事業・整備のプロセス(資金調達、事業者選定、建材の調達・輸送等)においても、環境に配慮する

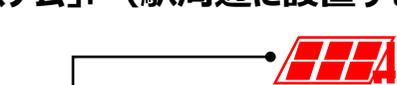
# 県庁舎再整備に向けた取組

【求められる機能について(危機管理)】 (令和6年度第1回埼玉県県庁舎再整備検討委員会資料より)

「ヘリTV」「水防災総合情報システム」「土石流情報受信装置」「防災地図情報システム」「道路等情報システム」「(駅周辺に設置する)高所カメラ」等

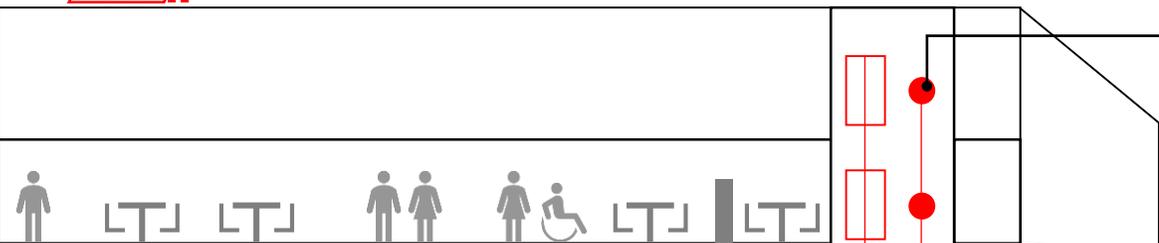


被災状況の調査や地域連携・広域支援に貢献し、的確な業務継続が可能となる「屋上ヘリポート」  
夜間でも飛行可能なヘリコプターを活用した情報収集体制



太陽光  
+蓄電池  
(BCP対策)

被災後の庁舎の安全性を迅速に確認できる「構造ヘルスマニタリングシステム」



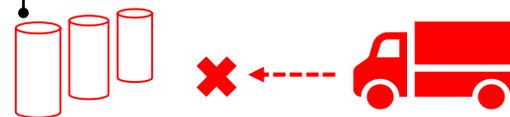
新庁舎

被災後にもエレベータが継続利用できる「自動診断・復旧機能」

雷サージから  
防御したい区画

危機管理防災  
センター機能

テロ対策用のボラード



地上

地下

非常用発電設備  
へ火山灰対策用  
フィルターの設置



ミサイル攻撃等の際に一時的に避難する地下施設  
(※フェーズフリーとして、普段は会議室等の用途で使用)

雷サージ低減設計による保護対策

オペレーションルーム、  
本部会議室、仮眠室等の  
災害対応拠点スペースの確保

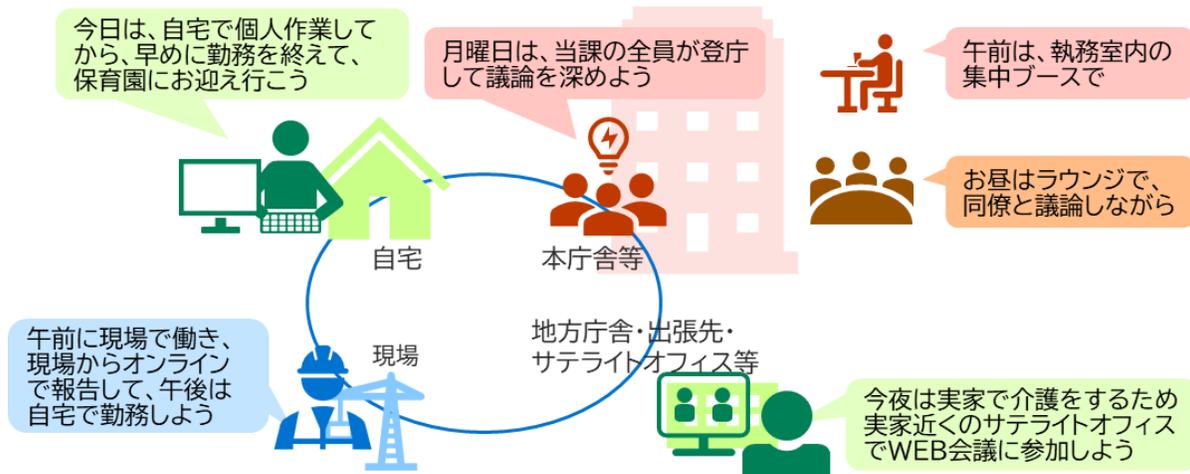
業務継続が可能となるよう電源供給の多重化  
(非常用液化燃料、中圧ガス、蓄電等)

# 県庁舎再整備に向けた取組

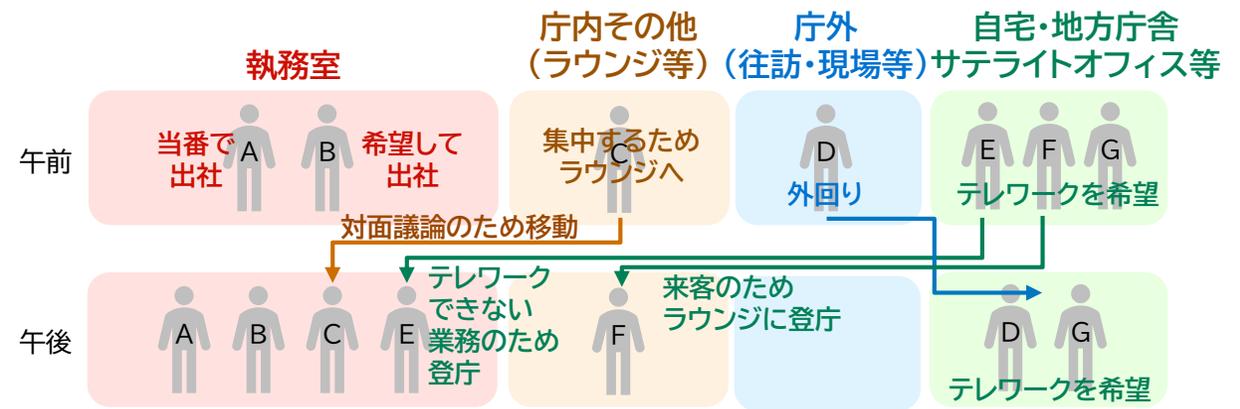
【目指す働き方】（令和6年度第1回埼玉県県庁舎再整備検討委員会資料より）

- 職員が多様で柔軟な働き方を実現し、ABWが一般化していることを目指す(左図)。
- ABWが一般化すると、右図に示すとおり、登庁者数は所属人数よりも少ないことが常態化する。
- このような「ABWを基本とする働き方が、今後中長期的には、ほとんどの部署において実現可能である」ということが庁内の各部署にヒアリングした結果確認された。

## 埼玉県庁が目指す働き方のイメージ



## 登庁イメージ(A~Gの7名が所属する部署の場合)



登庁者数が所属人数よりも少ないことが常態化

# 県庁舎再整備に向けた取組

【目指すオフィス】（令和6年度第1回埼玉県県庁舎再整備検討委員会資料より）

- 職員が登庁して対面で働くことも維持するが、ABWの推進により、職員が自律的に分散して働くことが増えることになる。したがって、より一層、県庁にはチーム力(ワンチーム)が求められることとなる。
- 様々な地域課題を解決することを目的として、チーム力を高めるためには、所属を超えてコミュニケーションし、協働する必要性を職員が認識するとともに、協働したくなる仕掛けが、ソフト・ハード面の双方から必要となる。
- 県庁舎においては、職員の意見・ニーズを聴きながら、部署を超えたコミュニケーションを促すマグネットスペース(※)等の導入を検討する。

※マグネットスペース:磁石に引き寄せられるように、自然と人が集まる場所を指す

## マグネットスペースの事例(民間企業)



ワークカフェ



キッチンカウンター

## マグネットスペースのポイント

- ✓ 動線等を工夫して、必ず通るように組み込む
- ✓ 共通の話題を提供し、体験・知識の共有を促す
- ✓ 多様な人を垣根なく混在させる
- ✓ 会話がはずむマインドを醸成する空間とする

## 導入することが想定されるマグネットスペース例

- ✓ 飲食・リフレッシュスペース
- ✓ 文房具や複合機の集約スペース
- ✓ 埼玉県及び県庁の情勢・事業の進捗等がリアルタイムで見える化されたスペース
- ✓ 職員一人ひとりの専門性や業務経歴を紹介し、職員同士のつながり・会話を生むスペース



# 県庁舎再整備に向けた取組

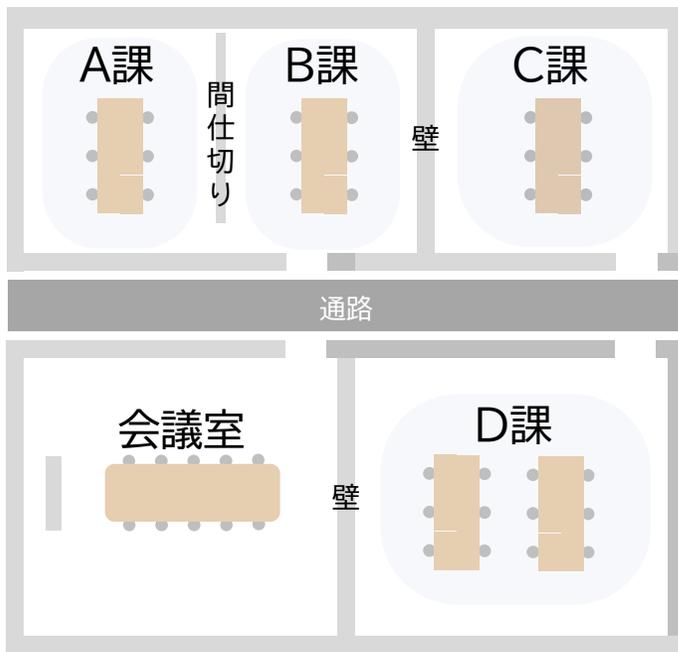
## 【オフィス規模の考え方】（令和6年度第1回埼玉県県庁舎再整備検討委員会資料より）

- コミュニケーションの活性化やスペースの有効活用を図るため、執務室は、間仕切りのないオープンな空間として 各部署のスペースを融合させることを想定する。
- ただし、各部署の業務の特性等が異なるため、一律の考え方でオフィスを構築するのではなく、部署ごとにオフィスをカスタマイズする必要がある。各部署の業務の特性等を踏まえた機能、レイアウト、座席運用を採用する。
- そのためには、部署ごとの特性等を踏まえた上で、目指すコンセプトを部署ごとに整理する必要がある。

### オープンフロア

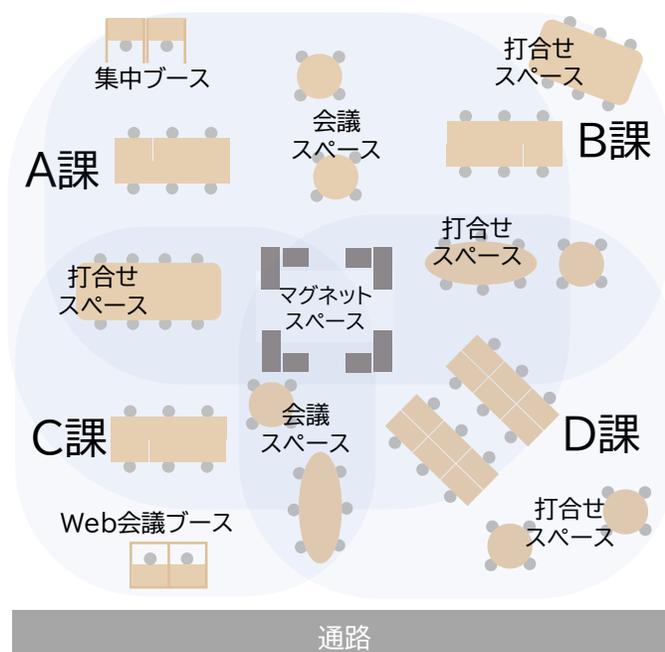
### 各部署の業務の特性を踏まえたオフィスの構築

#### これまでのオフィスのイメージ



部署で分けられ、壁や間仕切りで囲まれており閉鎖的

#### 目指すオフィスのイメージ



自由に行き来ができ、見通しがよくオープン

#### A部署

個人ワークに没頭することが多い

集中しやすい静かさやプライベートさのある作業効率の高い環境



#### B部署

部署内で議論することが多い

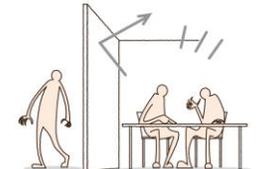
人が気軽に集まりコミュニケーションが自然と生まれる環境



#### C部署

庁外の方とのオンライン会議が多い

少人数から大人数までに対応した、機密性を確保できる環境



## ○最後に

- **ミライの県庁は県職員にとっても魅力的なオフィスにしたい！**
- **でもミライの県庁の整備は長い道のり…**
- **ミライを担う若手の活躍が欠かせない！**

